

キヌサヤエンドウの新品種「初姫」「春姫」の育成

軽部 稔・市 和人 (鹿児島県農業試験場)

Minoru KARUBE and Kazuto ICHI: New Pea Cultivars "Hatsuhime" and "Haruhime"

鹿児島県におけるキヌサヤエンドウの栽培は7月下旬～5月の長期にわたって行われており、作型も多様に分化し、品種も6品種以上使用されている。

栽培の中心は10月～4月に収穫する作型で、現在ニムラ赤花きぬさやを主要品種として栽培しているが、心止まり現象(果実負担等による生育の停止)が出やすく、葉先枯れ症(開花期前後に曇天もしくは降雨が多い場合に発生が多く、枝の先端部の托葉ならびに小葉の全体もしくは周辺部の褐変枯死、さらには落蕾・落花といった被害をもたらす)の被害を受けやすい。これらはいずれも収量に大きな影響を与えるものである。

本県では1973年から、良質多収で栽培容易な暖地型品種の育成を目標に育種を開始し、今回1980年交配の雑種後代から、当初の目標に近い品種を得たので、その育成経過と特性の概要について報告する。

1. 育成経過

1980年に、心止まり現象が出にくく葉先枯れ症にも比較的強い「おおすみ2号」(伊豆赤花の分系:鹿児島県農業試験場で選抜し1976年命名)を母、多収系統の「53号」(ニムラ赤花きぬさやの類似系統)を父として交配し、途中年間4回の世代促進等を経て(第1表)、1982年(F₇)に固定したと思われるので、その後生産力・特性等について検討した。1985年、有望な2系統を得たので「初姫」「春姫」と命名し、種苗法による品種登録出願申請を行った。

2. 特性の概要

初姫・春姫は、早生～中生の半矮性の品種である。花色は赤で、1花房の花数は2花性である。莢重は両品種ともニムラ赤花きぬさやと同程度、莢長は初姫がニムラ赤花きぬさやと同程度で、春姫はこれらよりやや長い。莢のそりは少なく、板状で莢の曲がりの少ない良質の品種である。また、ニムラ赤花きぬさやで収穫期後半に多い莢表面のくぼみの発生は両品種とも少なく、長期にわたる栽培において品質の低下が少ない。心止まり現象は

第1表 選 抜 経 過

世 代	栽 培 期 間	選 抜 経 過
交 配	1980年 4 月	
F ₁	1980. 8～1980.12	F ₁ 養成
F ₂	1981. 1～1981. 4	雑種集団栽培
F ₃	1981. 5～1981. 7	〃
F ₄	1981. 8～1981.10	18個体を選抜
F ₅	1981.11～1982. 3	無選抜
F ₆	1982. 3～1982. 5	〃
F ₇	1982. 9～1982.12	20個体を選抜

起こりにくく、葉先枯れ症の発生も軽微である。

初姫・春姫相互間の差異は、春姫が初姫に比べて莢がやや細長いことと、春姫の方が開花が遅く、収穫最盛期も遅いことである。

1983年～1985年に、9か所17試験(ハウスを含む4作型)を行い、特性および生産力について検討したが、両品種ともに対象品種であるニムラ赤花きぬさやに比べて増収し、全区平均で115～120%の値を示した(第2表)。

3. 適応作型

夏播き秋どり作型 秋播き冬・春どり作型(ハウスを含む)。

4. 栽培上の留意事項

初姫はニムラ赤花きぬさやとほぼ同時期に開花着莢するので、それをふまえて播種時期を決定すればよい。また、ニムラ赤花きぬさやに比べると心止まり現象は起こりにくいが、春姫に比べると起こりやすいタイプなので、土壤の乾燥に注意し、適切な肥培管理を行って心止まり現象の発生時期を遅らすことが増収につながる。

春姫はニムラ赤花きぬさやや初姫に比べて晩生の品種なので、それをふまえた播種時期の決定が必要である。また、収穫期後半に莢がやや長くなる傾向があるので、ハウス栽培の場合特に適期収穫を徹底する必要がある。

第2表 品 種 特 性

品 種 名	草 丈 cm	節 数	初花房節位	着莢節数	着莢数	莢 重 g	莢 長 cm	莢 幅 cm	くぼみ莢率 %	収 量 kg/a	同左収量比 %
初 姫	210.0	42.1	17.5	21.4	37.9	2.17	7.57	1.49	15.8	208.9	123
春 姫	207.8	45.5	19.3	21.4	37.7	1.95	7.74	1.42	11.2	194.0	114
ニムラ赤花きぬさや	190.8	43.9	17.9	22.1	34.9	2.06	7.47	1.45	33.5	169.6	100
お お す み 2 号	205.5	41.1	17.5	18.0	28.1	1.69	7.10	1.40	4.5	119.2	70

注) 1984～1985年, 10月6日播, 秋播き冬どり(ハウス)作型, 畦幅120cm株間5cm2条, 主枝1本化立て。